

令和7年度補正予算

「産学連携・スキリング・
エコシステム構築事業」
補助金事業

大学リ・スキリングプログラム事例集

メニュー②「産業成長」

領域：グリーンエネルギー

大阪大学:「リ・スキリング」×「リカレント」教育に基づくグリーンエネルギー高度人材育成

プログラム概要

① 名称

- 「リ・スキリング」×「リカレント」教育に基づくグリーンエネルギー高度人材育成

② 目的

- 専門知識や技術が多岐にわたるグリーンエネルギー・GX分野の現状を俯瞰的に理解し、今後のグリーンエネルギーやGX技術を効率的に開発可能な専門人材の育成

③ 対象者層

- 研究開発の最前線を担う比較的若年層からマネージャークラス
- 若年層を中心とした希望者には講義に加え演習・実習も提供

④ 育成対象の課題・目指す姿

- グリーンエネルギー・GX分野への対応は産業界においても緊急性が高いが専門知識や技術が広範なため具体的な対応が困難とされる
- 本プログラムの受講により、産官学における現状と今後の動向を理解し、各産業におけるグリーン化を高度に推進可能な人材の育成
- さらなる学修にむけた継続的なカリキュラムへのリンク

⑤ 学修成果

- グリーンエネルギー・GXに直接関わる研究・開発の事業計画立案
- 今後の動向予測をに基き、各企業における製造プロセス・製品開発を含め部門横断的なグリーン化の推進等が可能な人材を輩出

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 座学と演習・実習を組合わせたプログラム**
 - 国内外の現状、今後の方向、個々の具体的な研究開発課題と解決すべき問題を含む俯瞰的講義
 - プロジェクトマネージング、新興技術分野のロードマップ作成、研究デザイン、社会受容、グローバル展開などに関する演習
 - 実験系2テーマ、計算科学1テーマの実習（2～5日）
- オンラインと対面のハイブリット学習**
 - 講義は豊中キャンパスと双方向オンライン配信（金曜夕刻）
 - 演習は土曜日にハイブリッド形式で実施
 - 実験系実習は大阪大学キャンパスで実施
計算科学はオンラインで参加可能

② アピールポイント

- 修了者にはデジタルバッジを発行**
 - 保有スキルの社内外での可視化、キャリアアップ・異動・再配置におけるスキル証明ツールとしての活用が可能
- アドバンスリカレントプログラムへの接続、高度人材へのサポート**
 - 社会人リカレントプログラム（1年間 60講義、演習、実習）「グリーンエネルギー・GXコース」（令和9年開始）への参加により研究開発力の大幅アップ、社会人博士後期課程へのサポート
- 産学コンソーシアムを介した企業・大学間相互人材育成**

大阪大学:「リ・スキリング」×「リカレント」教育に基づくグリーンエネルギー高度人材育成

プログラム詳細

⑥ 受講料

- 5万円（講義）、5万円（実習）

⑦ 受講人数

- 講義（200人）、演習（20名）、実習（各テーマ10人）

⑧ 受講時間数

- 講義 12時間（1.5時間/回）、演習 24時間（6時間/回）、実習（12～30時間）

⑨ 開講時期・所要期間

- 講義 12～3月（8回）、演習10～1月（4回）、実習（10～2月）（2～5日）

⑩ 社会人の学びやすさへの配慮

- 講義（金曜夕刻）、演習（土曜）

⑪ 実施形式

- 講義・演習は対面/オンライン

申込方法・サイトURL

- 参加申し込みの方法：大阪大学エマージングサイエンスデザインR3センターHPに掲載

担当連絡先

- 問い合わせ先（R3センター特認教授 藤岡 透
fujioka.toru@insd.osaka-u.ac.jp）



⑫ シラバス

講義テーマ・概要（案）		演習テーマ（案）	
1	[エネルギーの将来施策] ・国内のエネルギー環境の現状・課題整理 ・将来に向けての解決すべき課題やその施策	1	[ロードマップ策定の視点・活用方法] ・新技術開発のロードマップ作成手法解説 ・課題テーマの受講生グループ討議・発表
2	[世界のエネルギー利用状況・関連技術動向] ・世界的におけるエネルギー市場動向 ・エネルギー関連技術の将来動向（創エネ・畜エネ・省エネ）	2	[GX関連材料開発のロードマップ] ・新規材料（CNT等）のロードマップ策定視点 ・新規材料分野でのMIの活用事例 ・課題テーマの受講生グループ討議・発表
3	[再生可能エネルギー] ・太陽電池や風力発電等の自然エネルギー動向 ・新規技術（ペロブスカイトPV等）の紹介	3	[技術経営（MOT）の重要性] ・材料評価技術のロードマップ策定視点 ・MOTの考え方とその活用事例 ・課題テーマの受講生グループ討議・発表
4	[水素エネルギー] ・国内のエネルギー環境の現状・課題整理 ・将来に向けての解決すべき課題やその施策	4	[ロードマップ策定演習] ・講師の指導により複数のテーマでロードマップ策定 ・受講生グループ討議・発表&講師講評
5	[フュージョンエネルギー] ・核融合発電の現状・課題 ・フュージョンエネルギー関連技術紹介	実習テーマ・概要（案）	
6	[エネルギーシステム] ・系統電力等におけるスマートシステムの動向 ・エネルギーシステム広域連携の課題整理	1	[電池・電気化学セルの作成] ・電池の基本構造や機能の理解 ・電気化学計測手法の習得
7	[次世代電池システム] ・蓄電池市場の現状・将来動向 ・次世代電池の技術紹介	2	[サステナブル材用のCMD] ・マテリアルズインフォマティクス手法の習得 ・機能のシミュレーション手法の習得
8	[脱炭素：CO2回収] ・脱炭素化の現状・課題整理（CCS、CCSU） ・DAC等の最新技術動向紹介	3	[電子ビーム露光] ・電子ビーム露光プロセスの習得 ・エネルギーデバイス等への応用展開

講義は必修科目、演習、実習は選択科目

大阪大学:「リ・スキリング」×「リカレント」教育に基づくグリーンエネルギー高度人材育成

プログラム詳細

地球温暖化などにより世界的なエネルギー源の転換が必須となっている中、新規半導体の開発、各種先端半導体を用いた新技術やAIを活用したデータサイエンス・テクノロジーなどの飛躍的な展開などが進み、その駆動を担うエネルギー増加への対応も重要な課題となっている。このような状況のもと、創エネ、省エネ、畜エネに資するサステナブル材料の開発、電池、再生可能エネルギーなどグリーンエネルギーやGX関連技術の強化は喫緊の課題であり、社会実装可能な新たなイノベーションが求められている。本事業では、産官学の講師の先生方による、「グリーンエネルギーやGX関連技術」について、企業において研究開発の最前線を担う比較的若年層からシニア層にも有益な、I.「① 国内・国外の現状、② 今後の方向、③ 個々の具体的な研究開発課題と解決すべき問題」を含む俯瞰的なシリーズセミナー（8講義）」、II.「計算、電池、材料加工などに関する短期実習」、III.「研究開発のロードマップ作成などの演習」からなるリ・スキリングプログラムを提供する。

	講義（シリーズセミナー）	実習（1テーマを選択）	ロードマップなど作成演習
概要	グリーンエネルギー分野の全般を俯瞰	グリーンエネルギーやGXの研究開発に関する研究手法の獲得	講師の講義、課題の提示、グループディスカッションと内容発表、講師からの講評によるトレーニング
講師	本学教員および学外の専門家	本学教員	本学教員および産業界での研究・開発リーダーの経験者
回数	8回（金曜、夕刻1時間半） ハイブリッド（オンサイト+双方向オンライン）（送受信システムの拡充）	2-5日間 （実験系は阪大キャンパス、計算科学系は双方向オンライン）	4回（土曜集中） ハイブリッド（オンサイト+双方向オンライン） （送受信システムの拡充）、通信費など込み
内容	●エネルギー利用の現状、将来、世界的動向 ●再生可能エネルギー技術 ●電池技術 ●太陽電池、光触媒技術 ●省エネ、畜エネ ●サステナブル材料技術 など	●電池・電気化学セルの作成 ●サステナブル材用のCMD ●電子ビーム露光によるデバイス作成など（新規開始、操作性拡充を行い実施、また学内共用装置使用も含む）	●企業でのプロジェクトマネージング、 ●新興技術分野のロードマップ作成、 ●研究デザイン、社会受容、グローバル展開など

講義



実習装置の例



演習



長崎大学:洋上風力人材育成・スキリング教育エコシステム構築事業 (IACOW-R)

プログラム概要

① 名称

- 洋上風力人材育成・スキリング教育エコシステム構築事業 (IACOW-R)

② 目的

- 洋上風力産業を牽引する高度人材創出とためのエコシステム構築

③ 対象者層

- 長崎海洋アカデミー等の基盤となる講座を修得し、関連分野も含めた実務経験を有する会社員・社会人を中心層とするが、幅広い層の受講を期待

④ 育成対象の課題・目指す姿

- 我が国の洋上風力産業は黎明期にあり、近年の事業環境の悪化等もあり企業内での人材育成体制が十分整っていないため、大学でのリ・スキリングを通じた高度な学修により、企業成長やキャリアアップに繋げる。
- 長崎大学は、洋上風力分野のコア人材を育成する社会人教育のエコシステムを構築し、カーボンニュートラルの実現と持続可能な社会の発展に貢献する。

⑤ 学修成果

- IACOW-Rの基礎理論を踏まえた高度な学びの修得により、洋上風力分野の事業拡大やイノベーションに取り組み、さらにエコシステム機能を通じて、修士・博士の学位取得を志す社会人の育成を促進し、今後導入拡大が見込まれる洋上風力分野の事業拡大へ貢献できる人材を創出する。

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

- 長崎海洋アカデミーやIACOWの大学院教育と連携した6つのコース**
 - ①「風車工学・風車ブレードの理論と応用」(R9～本格開講)
 - ②「風力発電技術の標準化と適合性評価、風況解析」(R8～〃)
 - ③「漁業共生と地域活性化」(R7～〃)
 - ④「洋上風力と海洋ロボティクス」(R8～〃)
 - ⑤「浮体・係留の要素技術、風車と浮体の連成解析」(R9～〃)
 - ⑥Offshore Wind Energy MBA インタロダクション (R8～〃)
- 長崎大学が強みを持つ漁業共生、海洋ロボティクス、浮体・係留**
大学の研究成果や知見を研究者自ら社会人教育に展開
- 国際的に活躍する実務家講師(長崎大学連携研究員等)が講義**
長崎大学が有する国際的な人的ネットワークを駆使

② アピールポイント

- 受講者派遣企業と大学が一体となった教育のエコシステムの構築**
講座受講時だけでなく、受講をきっかけとした講師陣と受講企業技術者等の人的ネットワーク構築を通じた技術者コミュニティの形成。
IACOWとの連携による学生・大学院生と受講者派遣企業との交流
- 修了者にはデジタルバッジを発行(昨年度発行済)**
スキルの社内外での可視化、キャリアアップ・異動等でのスキル証明



長崎大学:洋上風力人材育成リ・スキリング教育エコシステム構築事業 (IACOW-R)

プログラム詳細

⑥ 受講料

- 50,000円 (今後更新予定)

⑦ 受講人数

- 5名～10名

⑧ 受講時間数

- 6時間 (1.5時間×4コマ)

⑨ 開講時期・所要期間

- 科目②: 2026年10月 2日間で 3時間ずつ受講予定
- 科目④: 2026年9月～11月 2日間で 3時間ずつ受講予定

⑩ 社会人の学びやすさへの配慮

- 科目②: GOWSイベント開催時に日程を合わせ、実施予定
- 科目④: 初回は対面を予定しているが、オンラインも対応可能

⑪ 実施形式

- 初回講座のため、対面を予定

※GOWS: グローバル オフショア ウィント サミット
(2026.10.13～10.15長崎開催)

申込方法・サイトURL

- 参加申し込みの方法 WEBでの公開予定

担当連絡先

- 問い合わせ先 (長崎大学 IACOW-R 事務局) 095-800-4130

⑫ シラバス【令和8年度開講予定2講座】

〔科目②〕

② 風力発電技術の標準化と適合性評価、風況解析					
指導教員	鈴木 章弘				
開講年度	2026年度	開講時期	未定	講義時間数	90分×4回
教科書・参考書	独自資料	講義形態	対面講義, グループ演習	受講料	50,000円
修学目標			講義内容		
・技術の標準化と規格への適合を確認する適合性評価の一般概念を理解する ・事業戦略として標準化を理解し、規格策定への参加に向けた目的意識を持つ ・風力発電事業に関わる技術規格や認証制度を理解する ・風況解析・風況観測を題材に、風力発電に適用される規格等を理解する			1) 技術の標準化・国際規格策定の概念、標準化の目的と現状 2) 企業の事業戦略と標準化、技術者の関わり 3) 風力発電事業と技術規格、認証制度、風況解析とその認証 4) 技術規格に適合した風況観測とデータ評価		
修得スキル			成績評価方法		
・技術規格と適合性評価（認証制度）の基本概念 ・企業の事業戦略としての標準化 ・風力発電事業に関する規格と適合性評価の概念 ・技術規格に適合した風況解析・風況観測			講義テーマに関する理解度と講義への積極的参加 ・標準化と適合性評価に関する基本的概念と国際的制度の理解 ・技術規格策定や認証制度の策定に関わる基本的プロセス ・風力発電産業や発電事業において適用される技術規格と認証制度 ・風況観測や風況解析の国際規格と認証制度の理解		

〔科目④〕

④ 洋上風力と海洋ロボティクス					
指導教員	山本 郁夫、盛永 明啓、西村 直喜、吉田 弘、澤 隆雄				
開講年度	2026年度	開講時期	未定	講義時間数	90分×4回
教科書・参考書	独自資料	講義形態	対面講義, PC演習	受講料	50,000円
修学目標			講義内容		
・海洋ロボットの基本原理と設計要点を理解し、用途に応じたシステム構成を説明できる。 ・AUV・ROV・ASVの開発プロセスと運用方法を理解し、適切なミッション計画を立案できる。 ・洋上風力の施工段階ごとのモニタリング技術を理解し、点検・保守へのロボティクス応用を説明できる。 ・海洋センサーと通信方式の特徴を理解し、目的に応じたシステム選択ができる。			1) 海洋ロボットシステムの設計、開発学 2) 自律型無人水中探査機 (AUV)、遠隔操作型水中ロボット (ROV)、自動運行船 (ASV) の開発方法と運用 3) 洋上風力の施工前、施工中、施工後のモニタリングや海底ケーブル点検への活用法 4) 海洋通信のためのセンサー、通信システムの設計、開発学		
修得スキル			成績評価方法		
・海洋ロボットの基本設計・運用に関する基礎的エンジニアリングスキル ・AUV・ROV・ASVのミッション計画と運用管理スキル ・洋上風力のモニタリング・点検ロボティクスを適用する実践的スキル ・海洋センサーと通信方式の選定・設計スキル			・授業中には質疑応答等を通じて学習状況を確認する。 ・講義の最後に演習レポート課題を課し、以下の能力を評価する。 ・設計仕様を与えられて海洋ロボットの概念設計を行うことができる。 ・海洋ロボットに使用される通信、センサー系の機能を説明できる。 ・洋上風力発電への適用を想定した海洋ロボットの仕様を設定できる。 ・授業に全て出席し、学習状況と演習レポート課題の総合評価100点満点中60点以上を合格とする。		

長崎大学:洋上風力人材育成リ・スキリング教育エコシステム構築事業 (IACOW-R)

昨年度プログラム内容

プログラム写真



受講者数

- 10名

実際のプログラム実施内容

- 1/8 (木) 13:30-15:00
漁業・漁業者・漁協・漁村地域の実態 (清田先生)
- 1/8 (木) 15:10-16:40
各種漁業の操業形態と洋上風力開発との関係 (松下先生)
- 1/9 (金) 09:00-10:30
漁業への影響, モニタリング, 対応策 (佐々木先生)
- 1/9 (金) 10:40-12:10
合意形成, 漁業振興, 地域活性化の進め方
(清田先生 + 松下先生・佐々木先生)

関東からでも、1泊2日で現地参加可能なスケジュールとして夕食会も開催することができ、受講生と講師陣の意見交換を促進し、講義終了後にも情報交換可能なエコシステム構築を目指した。また、同業他社社員とフラットに意見交換できたことも有益と、好評であった。

昨年度成果サマリー

満足度

- 派遣元企業：3社中 非常に満足 1社、満足 2社
- 受講者アンケート：10名中 満足 70%、まあ満足 30%

受講生を輩出した企業の声

- 洋上風力発電の導入支援にあたり、漁業者へのアプローチ方法、留意事項、前提知識等を大学の視点から体系的に学び、環境・漁業への影響評価手法を科学的に理解することを期待
- 自社のみでの情報収集には限界があり、大学の有識者から知見が得られ、受講した同業他社とも意見交換ができることが有意義
- 自社の事業の方向性と得たい知識の内容は一致しているが、大学での学びを人事評価に反映させる仕組みがないという制度上の課題も

受講生の声

- 若手が基本を習得するために必要な経験と時間を節約できる一方、ベテランが既往の固まった考えを正し、柔軟な発想をするためにも役立つ
- 座学の他にグループワークや懇親の機会があるのが対面授業の価値

昨年度の実施を踏まえた発展ポイント

- 基礎的知識が必要な人には長崎海洋オーシャンアカデミー受講を推奨
- 将来的には修了生を対象とした交流ネットワーク・自主ゼミを開設
- 令和8年度開催時には、2年目として、10万円/人受講料を徴収する

長崎大学:洋上風力人材育成リ・スキリング教育エコシステム構築事業 (IACOW-R)

プログラム詳細

プログラム全体

①風車工学・風車ブレードの理論と応用 (R9年度開講)

- 欧州の先進的技術動向を理解して国内外の知識ギャップを解消し、効率的な事業展開や新技術開発の基盤を習得する。

②風力発電技術の標準化と適合性評価・風況解析 (R8年度開講)

- 風況観測を含む技術標準化の概念と現行規格、適合性評価とその手順を理解し、世界標準化に関与できる技術者を育成する。

③漁業共生と地域活性化 (R7年度開講)

- 漁村地域における対話と関係構築の進め方を理解し、漁業・地域振興の体制構築や漁業影響のモニタリング・評価手法を学ぶ。

④洋上風力と海洋ロボティクス (R8年度開講)

- 海洋ロボットの原理・原則を体系的に理解することにより、自社での製造・開発や効率的な運用に対応できる技術者を育成する。

⑤浮体・係留の要素技術, 風車と浮体の連成解析 (R9年度開講)

- 風車と浮体の連成解析、運転制御に対応できる人材を育成し、社内での解析技術の向上や社外委託の高度化に対応する。

⑥Offshore Wind Energy MBA Introduction (R9年度開講)

- 欧州における政策や事業の枠組みや動向を理解した上で、MBA取得を目指し得る 洋上風力分野の経営人材を育成する。

R7年度開講科目：③ 漁業共生と地域活性化

- 事前準備：意見交換会 (R7年10月10日, 東京)
 - 現場交渉に従事されている環境コンサルタント3社10名の担当者に講義のねらいや方法を説明して理解と協力を仰ぎ、具体的な進め方について協議した。
- 対面講義
 - 期日：R8年1月8～9日
 - 場所：長崎大学水産学部 (長崎県長崎市)
 - 講義内容：90分×4回 (別途交流会あり)
 - 1) 漁業と地域の実態理解
 - 2) 各種漁業の操業形態と洋上風力開発との関係
 - 3) 漁業への影響とモニタリング
 - 4) 合意形成・漁業振興・地域活性化の進め方
 - グループワーク
 - 空間的な関係性を考慮する。
 - 水産・地域振興に事業性評価の視点を導入する。
 - 影響調査の具体的出口を検討する。
 - 演習課題
 - ある1つの促進区域について、促進区域と漁業権水域の関係、漁業と漁協の状況、利害関係者と法定協議会での検討項目を調べ、事業推進上の課題を抽出し、課題を克服する取り組みを提案する。



九州大学: 洋上風力発電人材育成に係るリ・スキリングプログラム

プログラム概要

① 名称

- 洋上風力発電人材育成に係るリ・スキリングプログラム

② 目的

- 政府が2040年までに国内で30～45GW（2018年実績の約10倍強）の導入目標を掲げ洋上風力発電案件形成が進んでいく中で、洋上風力発電事業における事業開発、エンジニアリング及び運用・保守等の領域で人材は大きく不足している実態を踏まえ、洋上風力発電産業におけるエンジニア等育成ためのプログラム開発と実施を目的とする。

③ 対象者層

- 洋上風力発電の事業開発及びエンジニアリング領域における新人（新卒・中途・社内異動者）を含む広い対象の人材

④ 育成対象の課題・目指す姿

- 洋上風力発電の事業開発及びエンジニアリング領域において、学問体系に基づく高度な知識と実践的な応用力を有する人材

⑤ 学修成果

- 風力発電システムの初級エンジニアとして必要な工学知識を習得する（風力発電システム（初級））
- 風況・海象の基礎知識を理解するとともに、実際の問題に対する解析能力を習得する（風況・海象（初級））
- 洋上風力発電設備支持構造物（特に浮体式）の設計の全体像を理解し、設計・開発にあたっての基礎知識を習得する。（浮体設計・支持構造物（初級））

カリキュラム内容

① カリキュラム特徴

・ 学問体系に基づき且つ事例紹介の豊富なカリキュラム

- 海洋工学、風車工学、風工学、数値流体力学、大気力学、環境経済学、環境工学等の学問体系に基づきカリキュラムを設計
- 洋上風力発電を推進している企業からの講師陣及び豊富な事例の紹介

・ オンラインとオンデマンドのハイブリッド学習

- 講義は対面／オンライン併用とするが、本業で忙しい受講者のためにオンデマンド講義を準備
- 独自の受講システムにより、快適な受講環境を提供

② アピールポイント

・ 修了者には、マイクロ credenシャルフレームワーク1.0（※）を参照してメタデータ項目を設定したデジタルバッジを発行予定

※大学の国際化促進フォーラム、Japan Virtual Campus運営委員会、一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会の3団体合同によって設立されたマイクロ credenシャル共同WGにおいて2023.3.27に作成されたもの

・ 修了者には上位レベル又は新たな専門領域のプログラムの受講を薦めることにより受講生の継続的な学びを支援



九州大学: 洋上風力発電人材育成に係るリ・スキリングプログラム

プログラム詳細

2026年度は、初級 5 講座を開講予定（1 日～数日完結の短期集中講座、定員：各講座20人）

・ 風況・海象（初級）

開講日	2026年8月20日（木）9:00～16:40
講師（主担当）	内田 孝紀 教授（九州大学応用力学研究所 兼 洋上風力研究教育センターマルチスケール洋上風況研究部門長）
講義数・受講料	全4回／1日集中講座（講義90分×2回、実習60分×2回＋意見交換会）・30,000円
講義形式	講義2回はオンラインでの受講も可能、実習2回および意見交換会は対面参加のみ。（講義2回は、後日、動画を視聴し受講も可。）対面での講義・実習は、九州大学筑紫キャンパス（福岡県春日市）で行う。
内容	日本の気象・海象に対応した野外観測手法、数値シミュレーション手法、室内実験手法の基本を身につける。

風況・海象（初級）
の講座内容の詳細（シラバス）
はこちらをご確認ください。



・ 風力発電システム（初級）※

開講日	2026年10月26日（月）13:00～18:15
講師（主担当）	田中 元史 教授（九州大学 洋上風力研究教育センター社会実装推進部門）
講義数・受講料	全3回／1日集中講座（講義90分×3回）・25,000円
講義形式	対面・オンライン併用。後日、動画を視聴し受講も可。対面での講義は東京（日本橋）で行う。
内容	洋上風力発電システムの機械、電気の基本と、維持管理手法を概説する。

・ 浮体設計・支持構造物（初級）※

開講日	講義日未定 今後更新予定
講師（主担当）	宇都宮 智昭 教授（九州大学 工学研究院 兼 洋上風力研究教育センター支持構造物・洋上送電研究部門長）
講義数・受講料	今後更新予定
講義形式	対面・オンライン併用。後日、動画を視聴し受講も可。
内容	洋上風力発電設備支持構造物（特に浮体式）の概要と特徴、その設計における留意点等について概説する。

・ 経済性評価（初級）、電気システム（初級）※ → 今後更新予定

※ 風況・海象（初級）以外のシラバスは準備中（今後更新予定）

申込方法・サイトURL

- 受講申し込みはこちらより → https://recow.kyushu-u.ac.jp/hrd_2026/



担当連絡先（問い合わせ先）

- 九州大学 洋上風力研究教育センター（RECOW）
Mail : info@recow.kyushu-u.ac.jp



九州大学: 洋上風力発電人材育成に係るリ・スキリングプログラム

昨年度プログラム内容

プログラム写真



【講義の様子】



【実習の様子】

受講者数

- 88名

実際のプログラム実施内容

- 講義：初級 3 講座
風力発電システム(初級) → 全3回／1日(講義90分×3回)
風況・海象(初級) → 全4回／1日(講義90分×2回、実習60分×2回)
浮体設計・支持構造物(初級) → 全8回／2日間(講義90分×4回×2日)

昨年度成果サマリー

満足度

- 風力発電システム(初級) : 67%
- 風況・海象(初級) : 60%
- 浮体設計・支持構造物(初級) : 89%

〔講座内容が「期待どおりだった」と回答した受講者の割合〕

受講生を輩出した企業の声

- 非常によくまとまっており、業界初心者でも参加したいと思える
- 導入教育として非常に良く、社内教育の第一歩として活用できる
- 初級講座として幅広く要点を押さえており、体系立てた理解につながる
- 社内メンバーにも受講を勧めたい

受講生の声

- 風車の基礎について学ぶことができた
- 洋上風力発電に対する実用レベルの考え方を聞くことができた
- 風力発電のリスク分析業務の精度向上に役立てられそうと思った
- 体系的に整理されていて業務でも都度参照できる充実した内容だった

昨年度の実施を踏まえた発展ポイント

- 新たに、経済性評価(初級)と電気システム(初級)を開講
- 受講生の声を踏まえて、受講者と講師および受講者間の交流を目的とした意見交換会等を講座ごとに実施予定